

自然災害から 身を守る。

2019年の台風15・19号は、観測史上最強クラスの勢力で大きな被害をもたらしました。
とくに台風15号の被害が大きかった千葉県館山市にある「パルシステム千葉 キューブ館山」に、被害状況について取材しました。



予想を超えた 台風被害。

「キューブ館山」は千葉県の館山市にある、パルシステムの商品の供給や活動の拠点です。

「台風15号が上陸し、おとなが3人でやっと持てるくらいの倉庫の壁や、シャッターが飛ばされるなどの被害がありました。そのほか停電や燃料不足など、被害の影響が長期間続いたことも困りました。設備の復旧にも時間がかかり、完全な復旧はまだ先です」と所長の矢口さん。

「ご自宅の2階の屋根が半分飛ばされてしまったり、断水や停電が続き、住み慣れた家を離れなければならなくなった組合員もいます(矢口さん)」

“備える” 大切さを痛感。

「被害のあと“備えること”の大切さをあらためて実感した」と矢口さん。

「台風のあとは、パルシステム千葉本部から、さまざまな救援物資が届き助かりました。いま思えば、施設のメンテナンスや防災用品を備えるなど、もっとできていました。停電中は懐中電灯やスマートフォンの灯りを頼りに、組合員の注文書を確認していました。電気が点いたときは、ただありがたかったです(矢口さん)」



スタッフ一同、奮闘中！

「台風被害のあとも、キューブ館山のスタッフは誰ひとり欠けることなく出勤。組合員の状況を確認しつつ、商品の注文やお届けなどの業務に励んでいます!」

パルシステム千葉 キューブ館山 所長
矢口伸弘
(写真後列左)

2019年5月から毎号お届けしていたコラム「日頃の備えで防災・減災」も、今回が最終回。
これまでの情報を思い出しながら、わが家の防災対策をチェックしてみましょう。

安心・安全は正確な情報の確保から

災害時は状況が刻々と変化します。
まずは暮らしている地域の自治体から発信される情報を収集しましょう。

●防災行政用無線（防災行政無線）

管轄区域各所に設置されたスピーカーから、警戒情報や災害情報、避難に関する情報などが放送されます。

●広報車

地震、津波、台風などの災害時に出勤し、注意を呼びかけます。

●インターネット

自治体のウェブサイトから、防災への取り組みや災害情報、気象情報などを得ることができます。

●ツイッター（Twitter）

ツイッターやフェイスブックといったSNS（インターネットを利用したネットワークサービス）を使って情報発信している自治体が増えています。

●ハザードマップ

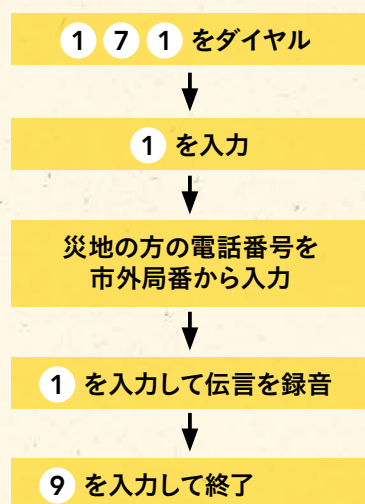
さまざまな災害について、予測される被害の程度や範囲、避難所の位置などを示した地図（ハザードマップ）が自治体から配付されています。ウェブサイトで確認できる自治体もあります。



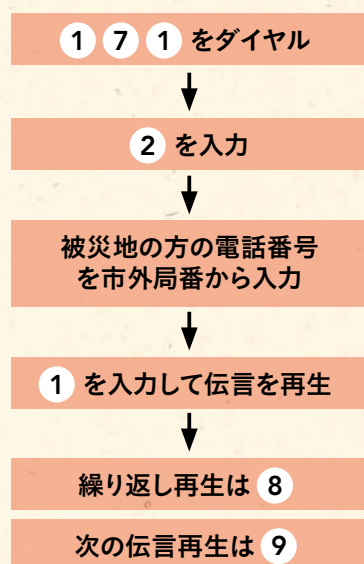
安否確認できる方法を家族と共有 ～災害伝言ダイヤル～

災害伝言ダイヤルは、災害発生時に被災地への通信が増加して繋がりにくくなった場合に、NTTが提供する「声の伝言板」です。

●伝言を録音する



●伝言を再生する



詳しくはNTTのウェブサイトを確認できます。
<https://www.ntt-east.co.jp/saigai/voice171/>

わが家の防災対策をチェック！

被害を最小限に抑えるには日頃からの備えが必要です。
このチェック表を使って確認してみましょう。

1 生活の備え	
非常食糧（家族全員×3日分）を備えている	
飲料水（1日ひとり3リットル×家族全員×3日分）を備えている	
懐中電灯・携帯ラジオ（FM/AM対応）・予備電池が用意してある	
非常持ち出し袋がすぐ取り出せる場所に用意してある	
風呂に水を貯め置きしている	
応急医薬品を用意してある	
貴重品（通帳・保険証・免許証）の重要書類はコピーや番号を控えてある	
2 ケガの防止	
各部屋に厚手のスリッパや靴を用意してある	
家族分のヘルメットや防災頭巾を用意してある	
窓ガラスや食器戸棚に飛散防止（フィルム）がしてある	
家具や大型家電製品等の転倒防止がしてある	
寝室には大きな家具を置いていない	
タンスや本棚の上に重いものを置いていない	
ブロック塀や石垣は補強してある	
3 火災の防止	
消火器・バケツ等を台所の近くに用意してある	
消火器の使い方を知っている	
近所の街頭消火器の場所を知っている	
たこ足配線はしていない	
4 災害時の対応	
家族で避難場所や連絡方法を話し合っている	
避難するときには電気のブレーカー・ガスの元栓を切る	
日頃から近所の人との付き合いを大切にしている	
身元がわかるものを常に身に着けている	
家の周りの危険個所を確認している	
日頃から地域の防災訓練に参加している	

〇がいくつありますか。判定を確認してみましょう

〇が19個以上	満点にむけて、さらにがんばりましょう
〇が18～13個	まだまだ安心できません。もう少しがんばりましょう
〇が12個以下	備えが不十分です！災害を迎え撃つために、いまずぐ準備を始めましょう

情報は女性防災クラブ平塚パワーズ発行の「防災 減災 パワーズブック」から抜粋してご紹介しています。

●女性防災クラブ平塚パワーズ

平成8年、神奈川県平塚市で結成されたボランティア団体。防災知識・技術の向上を目指し、地域の防災訓練への参加や各種イベントでの防災啓発など、女性のパワーを生かした防災活動を行っています。

パワーズの活動の様子はブログでチェック

<http://hiratsukapawazu.livedoor.blog/>



パルシステムでも

防災に関する学習会を開催しています

La♡Life(ら・らいふ)カフェ 防災学習会 (パルシステム群馬)

パルシステム群馬では、組合員や地域の方々にLPA※の活動に親しみを持ってもらうために、「La♡Life(ら・らいふ)」という名称をつけて活動しています。活動内容は各種学習会がメインとなりますが、開催方法もなるべく堅苦しくならないよう、「La♡Life(ら・らいふ) カフェ～今回のテーマ～」といった形で、組合員のくらし課題解決に役立つ情報を提供しつつ参加者同士も一緒に学べるような“カフェ形式”で行っています。

今回は、昨今何かと心配が大きくなってきた自然災害（地震や台風）をテーマに学び合い、参加した組合員からは「知らなかったことをたくさん学べました」「講師の体験を踏まえた話に親近感が持てました」「子どもとの情報共有も必要だと感じました」といった感想が寄せられました。

これからも組合員活動である「La♡Life(ら・らいふ)」らしく、組合員同士の学びあいを展開したいと思います。



※LPAとは
生協の全国組織である日本コープ共済連が実施する「LPA養成セミナー」を修了・合格した組合員。
またはFP2級以上のファイナンシャル・プランナー資格を自ら取得し一定の研修課程を修了した組合員。

パルシステム共済連は台風15号・19号被災地で 共済金請求のための訪問活動を行いました

パルシステムとパルシステム共済連は、昨秋に甚大な被害をもたらした台風15号、19号で被災された組合員へのお見舞いと、CO・OP共済《たすけあい》住宅災害保障の共済金請求手続きのご案内のため、2019年9月～11月にかけて千葉、埼玉、茨城、福島の各所へ職員が直接うかがう訪問活動を行いました。

訪問先ではお見舞いの言葉をかけるとともに、今回の被害が住宅災害保障の対象となる可能性があることを説明。家庭ごとに被害の状況を聞いてその場で被害状況の査定を行うなど、組合員がスムーズかつ迅速に共済金の請求ができるようお手伝いをしました。

被災地では修理業者の対応が順番待ちとなっていることもあり、訪問時には被害額が確定していないため共済金請求の手続きができるのが後日となる家庭も多く、パルシステム共済連では引き続き、ダイレクトメールの配付等で被災した組合員のサポートを続けています。

